

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。
- (2) 5月後半の巡回調査では、発生が確認されなかった（図省略）。

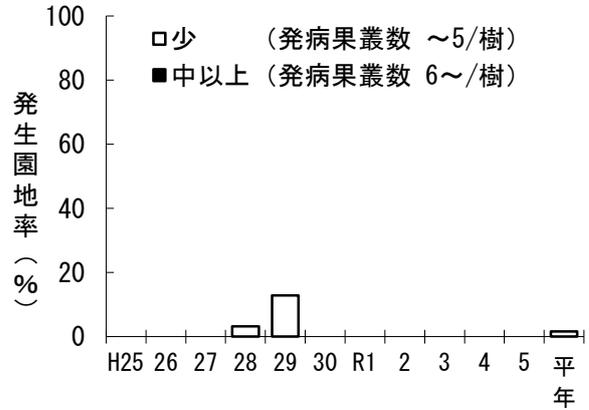


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（落花期）

2 腐らん病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査での発生園地率は29.0%（平年42.6%）であり、平年より低かった（図2）。
- (2) 地域別では、県中部での発生程度少以上の園地率が13.3%（平年46.7%）であり、平年より低かった（図3）。

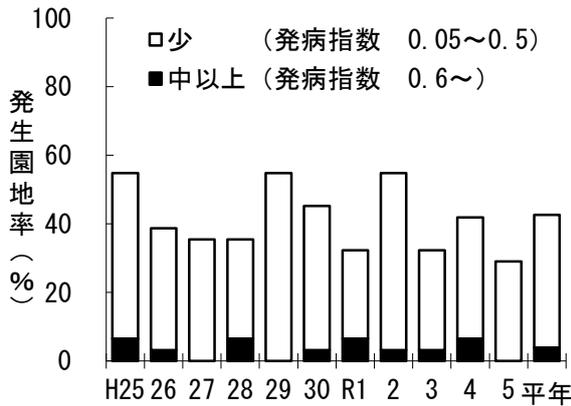


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（落花期）

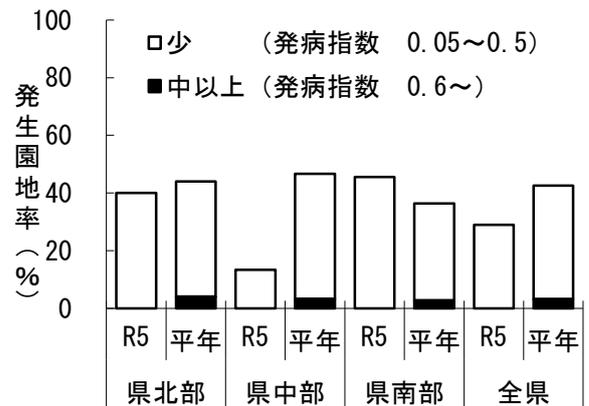


図3 腐らん病の地域別発生園地率（落花期）

3 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月29日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。
- (2) 落花期（5月前半）の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。
- (3) 5月後半調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図省略）。

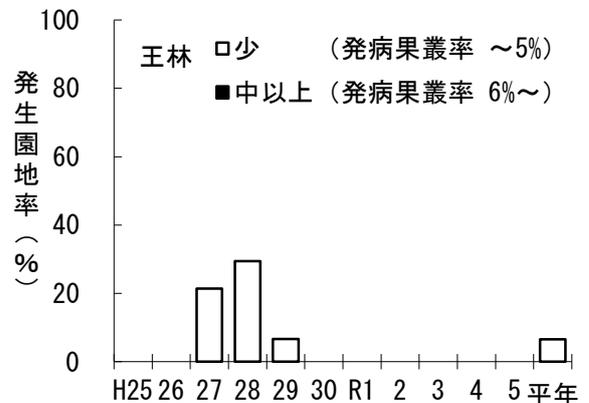


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（落花期、果叢葉、王林）

4 黒星病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査では、発生が確認されなかった（図5）。
- (2) 5月後半の巡回調査では、発生が確認されなかった（図省略）。

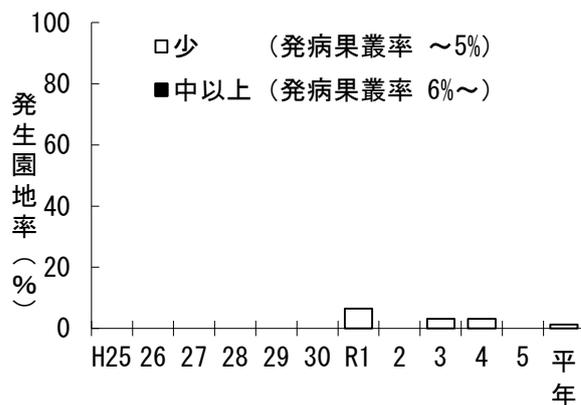


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
(落花期、果叢葉)

5 うどんこ病

- (1) 落花期（5月前半）の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.6%）であり、平年並だった（図6）。

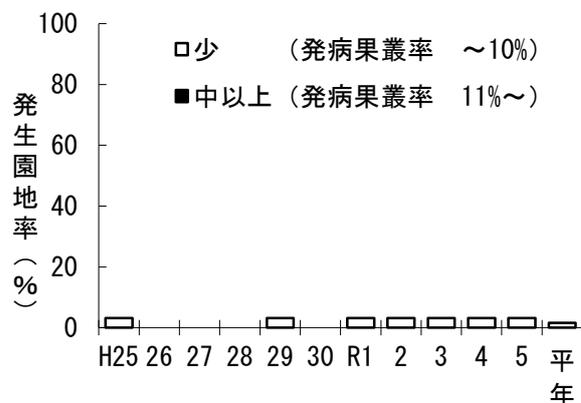


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(落花期、果叢葉)

6 褐斑病

- (1) 基準圃場（北上市、ふじ、無防除）における果叢葉での初発は5月第4半旬であり、過去一番早かった。
- (2) 例年発生が確認されない、落花期（5月前半）の巡回調査では1園地（5/12）、5月後半の巡回調査では2園地（5/23）で発生が確認された。

7 リンゴハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は19.4%（平年11.3%）で平年よりやや高く、5月後半は9.7%（平年23.9%）で、平年よりやや低かった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半では9.7%（平年1.6%）で平年より高かった（図7、8）。
- (2) 5月後半の地域別の発生園地率は、県北部は平年より高く、県中部と県南部は平年より低かった。また、県北部と県中部ではいずれの発生園地も発生程度中以上であった（図9）。

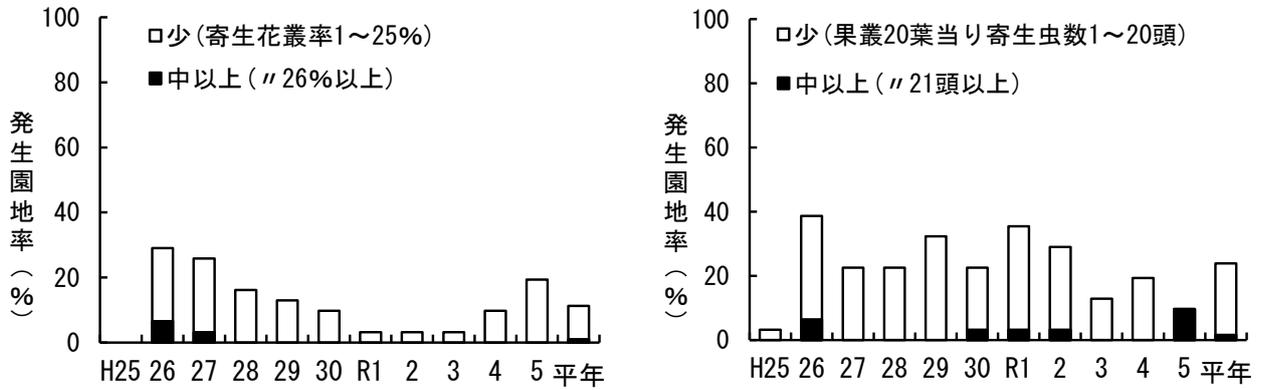


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

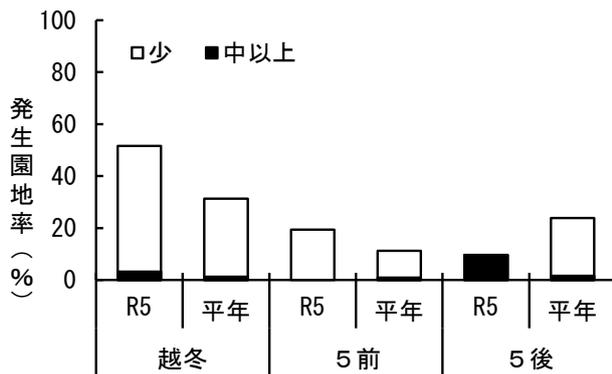


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

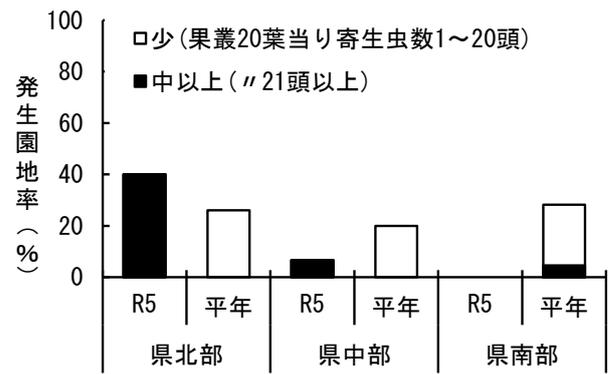


図9 リンゴハダニの地域別発生園地率 (5月後半)

8 ナミハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は12.9%（平年26.8%）で平年よりやや低かったが、5月後半は16.1%（平年18.4%）で平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半は9.7%（平年0.3%）で平年より高く、5月後半は9.7%（平年9.4%）で平年並だった（図10、11）。
- (2) 5月後半の地域別の発生園地率は、県北部は平年より高く、県南部及び県中部は平年より低かった。発生程度中以上の園地は、県北部で見られ、平年より高かった（図12）。

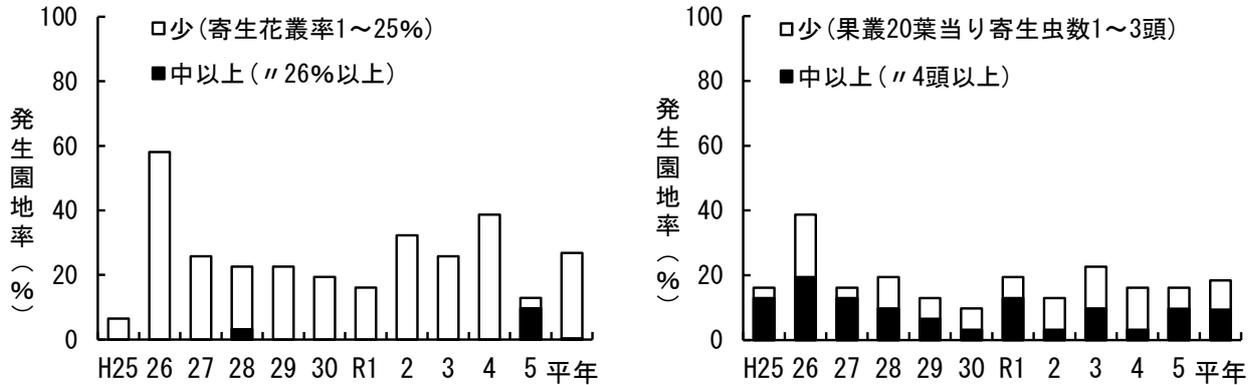


図10 ナミハダニの発生園地率の年次推移（左：5月前半、右：5月後半）

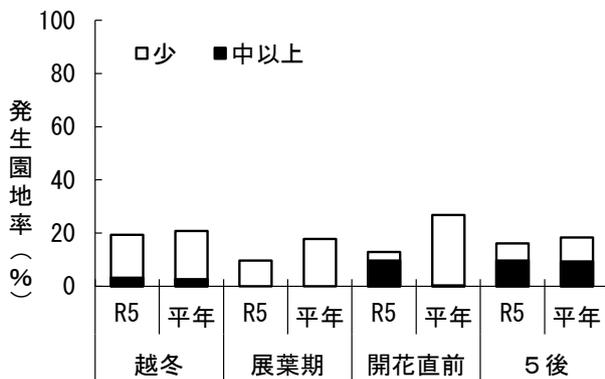


図11 ナミハダニの時期別発生状況の推移

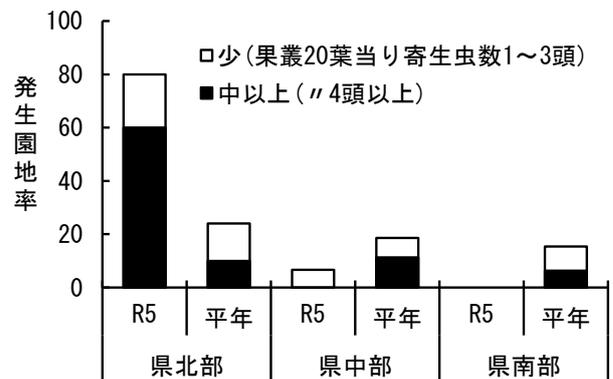


図12 ナミハダニの地域別発生園地率（5月後半）

9 ヤナギルリチョッキリ

- (1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は25.8%（平年18.8%）で、平年よりやや高かった（図13）。

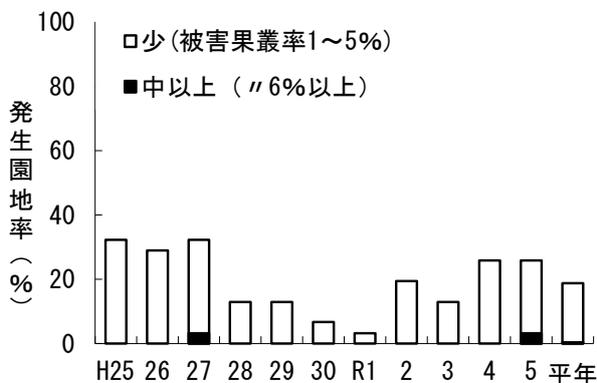


図13 ヤナギルリチョッキリの発生園地率の年次推移（5月前半）

10 モモシンクイガ

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップには、平年より1半旬早い5月第4半旬に誘殺が確認された（図省略）。

11 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、4月第2半旬に羽化盛期が認められ、平年及び昨年より3半旬早かった。5月にも越冬世代の誘殺が認められた（図14）。
- (2) 前年に年間累計誘殺数が多かった現地圃場（盛岡市東安庭）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より多かった（図15）。
- (3) 5月後半の巡回調査において、第1世代幼虫の発生圃地率は45.2%（平年11.6%※）で平年より高く、発生程度中以上の圃地は19.4%（平年3.9%※）で平年より高かった（図16）。
※平年値は6月前半調査のものを参考として使用。
- (4) 5月後半の巡回調査において、一関地区を除くすべての地区で発生が確認され、盛岡、花巻・北上、奥州地区では発生程度中以上の圃地が見られた（図17）。

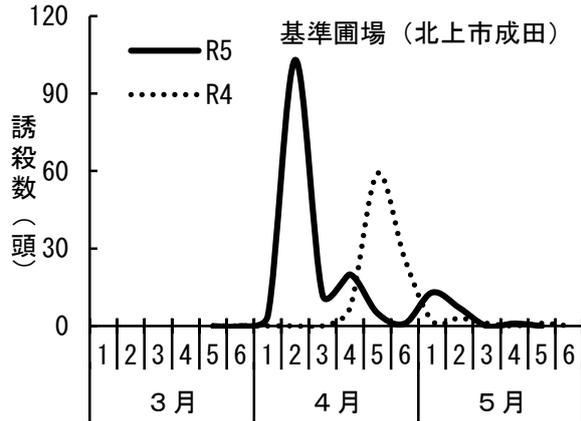


図14 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況

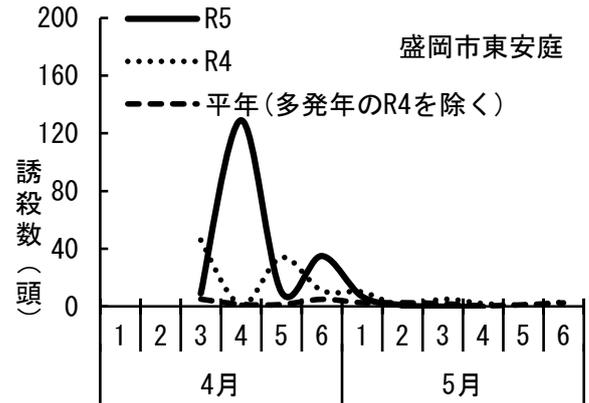


図15 盛岡市東安庭におけるキンモンホソガの誘殺状況

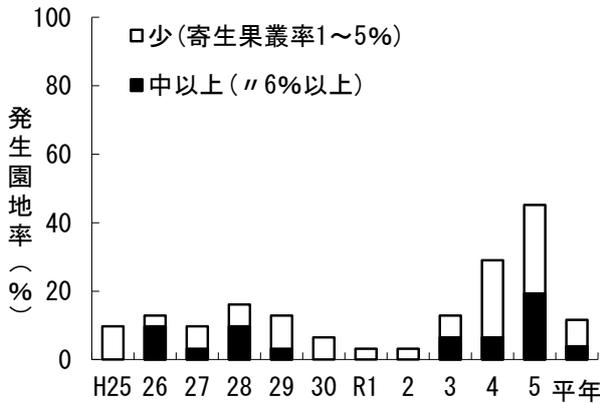


図16 キンモンホソガの発生圃地率の年次推移
(果叢葉) ※R5を除くすべての値については6月前半調査のものを参考として使用

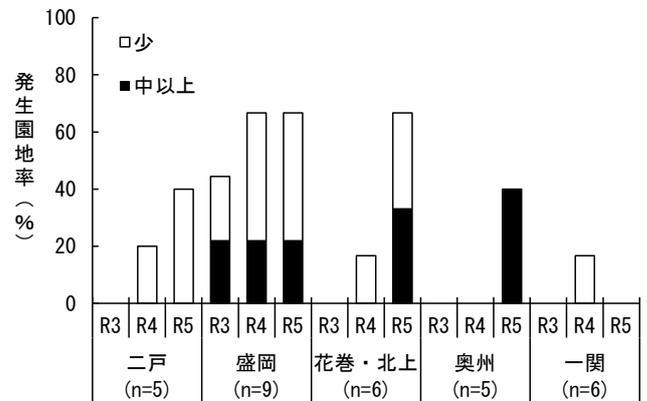


図17 キンモンホソガの地区別発生圃地率
※R4及びR3の値については6月前半調査のものを参考として使用

12 ギンモンハモグリガ

(1) 5月前半の巡回調査において第1世代幼虫の発生は確認されなかった（平年2.9%、図18）。

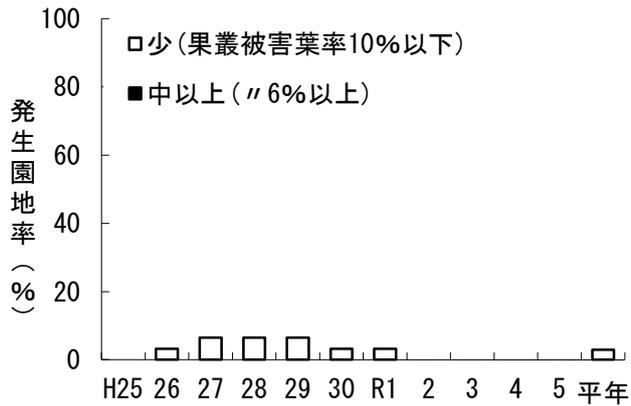


図18 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移
(5月前半)

13 果樹カメムシ類

- (1) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場（北上市成田：無防除）では、5頭以上の誘殺が1回あった。現地園地（盛岡市川目）では5頭以上の誘殺はなかった（図19）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、北上市成田、盛岡市川目ともに、それぞれ5月第5半旬までは確認されていない（図20）。

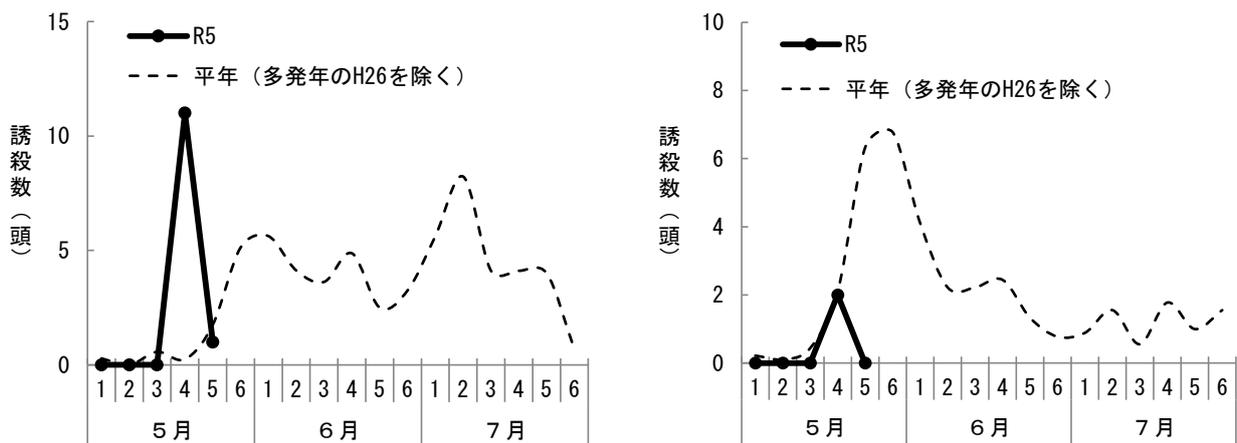


図19 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
(左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目)

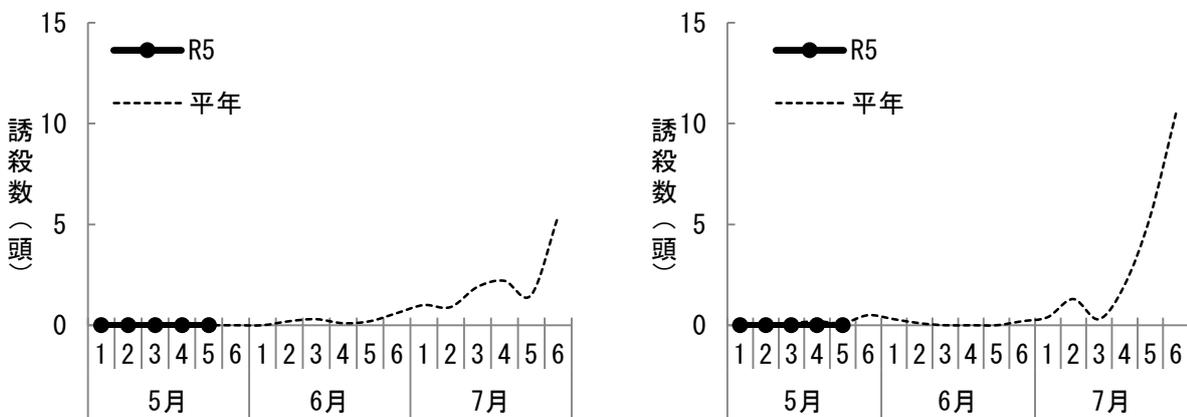


図20 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：北上市成田、右：盛岡市川目)